

えでぴあ

立川と語ろう 立川に生きよう

September 2018

Écoutez Bien Vol.36 No.406

9

理数系の頭に切り替える

表紙の人／岩崎家三代（曙町）



中村亭 [1]

案内人

沼本忠次氏（日本鉄道構内営業中央会 事務局長）

中村亭の創業は明治34（1901）年。明治22年4月11日、甲武鉄道（当時私鉄だった）が新宿―立川間で開業した。当時の立川は、中心地が駅舎より離れた多摩川沿岸の街道に連なる数百軒の農村集落で、人口はわずか2千人にすぎなかったという。駅が配置された場所は、麦畑と雑木林に囲まれた寂しいところで、駅長以下5、6名で勤務に当たっていた。

このあたりに先祖代々住んでいた中村徳次郎という者が、駅前に旅館と汽車待合所を兼ねて「茶亭」を開業した。その影響もあってか、付近にも民家が点々と新築され少しずつ発展していった。しかも明治27年11月19日には、青梅鉄道株式会社（株）の経営により、青梅―立川間の客貨併合の軽便鉄道が開通し、その乗換駅となったので、徐々に乗客が増えていった。

二代目徳次郎は、当時の駅長と深い親交のあった関係で、次代中村久之助の親友、鈴木準三男氏（日本通運立川委託店長）の斡旋で、立川駅仲卸業（立売業）並びに駅構内売店業の承認を会社に出願したが、当時すでに他より申請があったため競願の形となったため、容易に決定せず、明治34年2月に入って初めて正式に承認されたのであった。

[中村亭 沿革]

初代…中村平三郎、東京四ツ谷生まれ。明治初年立川に移住。

二代目…中村徳次郎。平三郎の長男、料亭旅館 中村亭を創業。

三代目…中村久之助。徳次郎の甥。明治34年2月駅構内営業を創設して営業人となる。

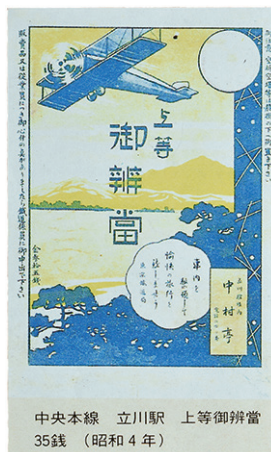
四代目…中村富雄。久之助の次男。昭和23年3月営業を継承。昭和26年10月18日株式会社中村亭を設立し、代表取締役となる。

三代目久之助は、八王子商家に商業見習いとして長年勤続。20余歳にして家に戻り、料理旅館等を経営した。特に鉄道指定旅館として職員の宿泊に貢献、最新のサービスを尽くして鉄道当局より度々感謝状が贈られた。甲武鉄道が公有化となると会社より多年にわたり協力の功を称され、特に銀杯が贈られた。また立川飲料組合の設立に参加し、組合長、地元消防団、町内会長を務めたが、戦時中の強制疎開のため、住居を離れ一切の公職からも退いた。昭和30年12月、不慮の交通事故により帰らぬ人となった。

（10月号につづく）



大正5年頃の立川駅北口（故・岡崎清平さんより借用）
中村亭は立川駅正面、塚善の並びにあった



中村亭 国鉄時代の弁当掛け紙の一部

統計数理研究所シリーズ〈データの時代〉 最終回

統計は大人の科学

統計数理研究所 所長 樋口知之氏

理系の頭に切り替える。
すると未来が見えてくる。
それが統計の力。

——先生、襟のバッジは75周年ですか？

樋口 来年の6月5日が設立75周年です。75周年記念事業でこのバッジを作りました。改めて大がかりに何かしているわけではないのですが、1年前から各種イベントに75周年記念事業と冠をつけてやっています。——予算がだんだん削られてきて、何かと大変ですよ。

樋口 そう。旧文部省と旧科学技術庁がひとつになって文部科学省になった。理化学研究所とかジャムステック（海洋研究開発機構）とか原子力開発機構とかは旧科学技術庁の所管で、我々は旧文部省になります。大学セクターですから大学と同じ扱いなんですね。旧帝大は運営交付金という普通に割り当てられているものが毎年1.6%ずつ減らされていて、我々と極地研が所属する情報・システム研究機構はそれがだいたい90億円で、毎年同様に減らされています。減額率は国文研や国語研も同じです。

——そうだったんですか！では野間先生のいらっしゃる医療健康データ科学センターはその運営交付金から設立されたのですか？

樋口 非常にいい質問ですね。1.6%減りますよね。財務省は、それぞれの大学などからこの減額した分を集めてきて、今回のセンターのような何か広く役に立つような企画を出したときに再配分するわけです。我々としては取り戻しにいかないといけないわけです。からくりはわかりましたか？

——はい。では統計思考院はどうなんですか？

樋口 思考院は違う。我々のもとの持ち分の中でやっています。それも非常にいい質問ですね。90億円のうち、国がある時、急に5%はトップの裁量だと決めたんですよ。増やしたんじゃないですよ、今まであった分のうち5%はトップのものと決めたんですよ、我々の準備無しにね。

——トップの？

樋口 そうです。思考院はこのトップのお金で支援してもらっています。今は藤井良一機構長に支援してもらっています。各研究所も同じような形で支援してもらっています。

——それって、支援と言えるのかな。

樋口 増えずにほぼ同じ状態は、厳しい財政状況の中でまだ恵まれているのかもしれませんが、今までのものを減らして競争になったわけです。ですから我々の手暇暇はものすごく増えています。取り戻しにいかないといけないのですから。

——なかなか経営も大変ですね。ところで、統数研が立川に移転して来られて、私どもでもすぐおうかがいしました。でも、先生方が何をおっしゃっているのか、はっきり言ってまったくわかりませんでした。それがトラウマというか、統数研はわからないことをやっているというイメージでなかなか足が向きませんでした。

樋口 ああ、そうでしたか（笑）。

——でも、今回の連載を通して、統数研って未来を切り拓く研究をされているのだということがよくわかりました。

樋口 バリエティに富むしね。

——はい。この何か月かで、頭を理数系に変える必要性というものを学びました。

樋口 いやあ、いいことをおっしゃいますね（笑）。

——曖昧さとか感情、情操、それも大事ですが、そういった漠然としたとらえ方だけではしっかりと前に進めない。未来が切り拓けないということがわかったんです。

樋口 すばらしいですよ。私が言っているかのようですね（笑）。産業界も同じなわけです。今までのように機械を作って、工作機が並んでいてエキスパートが一生懸命作業するイメージの産業でなく、全部デジタルトランスフォーメーションしないといけないんです。

——デジタルとかデータとか、スパコンが何を計算しているのか、なぜ必要なかまったくわかりませんでした。でも人間性などの重要性とはまったく別次元の話で、統計はあらゆることに必要だと、ようやくわかりました。

樋口 そうですか、ようやく僕が辞めるころになって（笑）。

——すみません。でも、日本の一般人にとって、統計はそういうものだと思います。前回の坂田先生とお話している時、坂田先生が「正しいって何ですかね？ 統計は、それが正しいかどうかはどっちでもいい」とおっ

樋口 知之氏

1989年東京大学大学院理学系研究科博士課程修了後、文部省統計数理研究所に入所。2011年より現職の情報・システム研究機構理事、統計数理研究所所長。ご自分のことを「たたき上げのデータ解析屋」だと言う。2005年12月にJR羽越線の最上川にかかる鉄橋付近で起きた死者5人、負傷者33人の痛ましい事故が起きた後、JR東日本が取り組んだ「鉄道の強風予測に関する時系列解析」で統数研チームが活躍した。開発された「強風警報システム」により、安全性を確保しながら強風による列車の運転休止時間を短縮することが可能になったのである。樋口所長は北川源四郎氏（前情報・システム研究機構機構長及び、前統計数理研究所所長）とともに、この研究に際し指導的役割を果たした。



しゃったんです。ショックでした。

樋口 その通りですよ。法曹の世界と統計とは似たところがあって、裁判もエビデンスに基づいて大人の解決をしているわけですよ。本当は何なのかということは実はよくわからない。統計も同じなんです。データを集めてさまざまな観点から合理的な推論で、みんなでこうじゃないかと決着するのが統計なんです。

——はじめはよくわかりませんでした。正しくなければならぬと思っていましたから。でも確かに、正しいって何なんでしょうね（笑）。

樋口 そうでしょ？ 世の中の多くのことはそうじゃないですか。サイエンスもそうなのですが、そのことを、研究者自身もわかっていない。真理を導いていると思っているかもしれないけれど、過去のいろいろな文献、知識、データ、それらに基づいてみんなでこれはこうだよなと思っている、それには過ぎないのです。統計学というのは、サイエンスをどう考えるかというメタサイエンスなんですよ。だから以前から言ってたでしょ、大人の科学だって。ようやく大人になりましたね（笑）。

——先生も大変でしたねえ、わからない人間を相手に孤軍奮闘されて（笑）。でも、樋口先生はお若いからエネルギーに爆走してこられたというイメージです。

樋口 先ほど申し上げた「取り戻しにかか

る」ということには、ものすごくエネルギーが必要です。私が所長になって変えたこと。それは、私のように若くして所長になって、定年前に所長の任期が終わる人が今後も出てくる可能性があります。ですから、所長を辞めても普通の教授として戻れるように制度を変えました。ただし、私の次の代からです。——え？ ご自分は入らないのですか？

樋口 コンプライアンス、いやガバナンス的におかしいでしょ。組織として絶対にやってはいけないことがあるんですよ。最近は、やっている組織もありますけれどね（笑）。でも本来は絶対やってはいけない。しかも引継ぎができるように、10月には次の所長を決めるようにしました。

——先生の任期はいつまでですか？

樋口 来年の3月です。でもその少し前に決まったのでは引継ぎができないじゃないですか。私の時は大変でした。東日本大震災の直後でしたからね。引継ぎも何もしでした。計画停電もあったし、電力の利用を落とさなければならなかったし、その後ビッグデータブームがドーンと来て、統計ブームが来て、人工知能ブームも来て、こんな時期に私でよかったのか、かなり怪しいですけれどね（笑）。

——ブームの真ただ中を突っ走ってこれました。

樋口 全速力ですよ。

——おかげで統数研のイメージは、ものすごく変わりました。閉じていたものが開いた印象です。

樋口 そう言っていただけると嬉しいです。——企業との共同研究も多くていらっしゃるし、立川市のアカデミックアドバイザーに朴先生が任命されましたしね。

樋口 我々の研究にはコミュニケーション能力が必要です。多様性も重要で、多様性を増すために4つ、取組んできました。若手を増やすこと、女性研究者を増やすこと、外国人を増やすこと、最後は海外との交流を活発化させること、ですね。その成果がここに並んでいるたくさんの方の記念品です。特にアジアの国々との交流です。日本、韓国、台湾それに香港などの先進アジア地域の老化率は大変なものです。これを解決するには自分らだけでなんとかしようとするのではなく、連携していくこと。エコシステムでないとダメなんですね。エコシステムは若い人には根付いているんです。エコシステム、シェアリング、持っていない人に手助けし、自分たちが困れば力を借りる。

——将来、新しいコミュニティができるかもしれませんね。

樋口 そう。それと同じで、立川市だけでなく何もかもしようとするのではなく、周囲の街とお互いに協力しあって新しい形を見出していく。統計がなくてはできないことです。

WHACK A WAKA で楽しく学ぼう

ひやくにんぐりっしゅ 100人ぐりっ首——英語でとる百人一首

WHACK はカルタを素早く取る動作のこと。
和歌カルタを素早く取る——
それが、WHACK A WAKA。

2017年から始まった国文学研究資料館の興味深い
試み。それが「ないじえる芸術共創ラボ」だ。「ないじえる」
は国文学研究資料館を英語表記した時の頭文字。
国文研に所蔵される膨大な古典籍、そ

れら古の
書物を
紐解き、研
究者の話を
聞きながら、
そこから得た
インスピレー
ションでアート
などを創作
するというも
国内外から招

の。立役者は
聘されたアーティストや翻訳家。6月に中間発表が行われたア
ニメーション作家 山村浩二氏によるアニメーション創
作もそのひとつ。

今回は翻訳家 ピーター ジェイ マクミラン氏による
「英語でとる百人一首」大会が開催された。その名も
「100人ぐりっ首」。7月25日（水）、立川市柴崎学習館
講堂・体育館で開催された。コンパクトながら内容の
濃い企画で、市内から集まった30有余人の中・高生が
静かな闘志を燃やした大会だった。

英語の札には富士山や岩など風景が描きこまれている。
絵からだけでも取札を推測することができる。読札
と取札が絵合わせになっていることなども併せ、こうした取
組は尾形光琳が少し挑戦しただけで、他には誰もしたことが
ないので、初めての試みということになるという。上の句、下
の句は必ずしも日本語の札とは一致せず、むしろとりやすい2
行が取札には記されていると理解した方がよい。日本の精神
性を内在させた新しいカードゲームの装いだった。

百人一首には、日本文化、日本の美しい世界が凝縮されて
いる。いまや「俳句」「相撲」「寿司」と言った日本語が英単語
となっている時代、「WHACK A WAKA」の普及で「和歌」
も世界の共通語になっていき、いずれオリンピック種目にも
なっていくだろう、というマクミラン先生のお話。ここにも「立
川から世界へ！」が期待される。

国文研館長 ロバートキャンベル氏の挨拶

小町邦彦立川市教育長

百人一首の説明をする国文研教授 神作研一氏（左）

今から250年くらい前に刊行
された百人一首の絵本
鎌倉時代に成立した百人一首
だが、最もよく読まれたのは
江戸時代だった

江戸時代の百人一首 箱は金の時絵

マクミラン氏作の英語版 取札
読札には5行、取札には2行記されている

優勝したのは立川市立第一中学校のおふたり

えくてびあんの輪	
えくてびあんはリストのお店にあります。 今月は 上砂町・砂川町・柏町・幸町 若葉町・栄町・高松町 のお店です。	
上砂町	fresh shop スーパーはしもと 536-2331
●砂川町	みののれ立川……………538-7227 JA 経済センター 立川店……………536-1824 JA 東京みどり 立川支店……………536-1821 陶工房 己流庵……………537-6102 たましん 砂川支店……………535-4411 珈琲豆焙煎工房 まめ吉……………535-1070 BREAD & Sweets マニシェール 537-2202
●柏町	café de La Boum……………534-6541 山梨中央銀行 立川支店……………536-0871 株式会社 セレモア……………534-1111 超こってりらーめん パワー軒 535-1665 H.works……………537-7763 ペーカリー リオンドール……………535-4882 (有) まつい測量……………534-4411 ピーコック 玉川上水店……………538-3861 菅家医院……………536-4602
●幸町	立川農産物直売所……………536-2439 いなげや 立川幸店……………537-1820 たましん 幸町支店……………535-5311 中国料理 SANFUJI……………536-3813 西武信用金庫 幸町支店……………537-3101 お米屋さん 大黒屋……………536-0851 (株) 松浦商事……………536-6001 至誠キートンホーム……………538-2323 とんかつ・割烹 かつ亭……………535-4611 ドイツ製ハム・ソーセージ・ソーホーフ工房 535-5009 和洋菓子 たちばな……………537-0347 BS タイヤショップ 佐藤商会 537-0912 在宅療養支援診療所 立川在野クリニック 534-6964 古楽の小屋 ロバハウス……………536-7266
●若葉町	レストラン サラ……………534-0602 浅見内科医院……………537-0918 スーパー ヤオコー……………538-1711 ありた整骨院……………534-1622 カフェ タイニーガーデン……………507-1346 カフェ・レストラン てくたく 536-5788
●栄町	たましん 栄町支店……………536-9711 いなげや 立川栄町店……………523-7201 チーズ王国 本社……………513-4101 高橋酒店……………522-4479 彩食中華 須崎……………507-0981 寝具の石川……………524-1333 手作りパン工房 Bonheur ～ボヌール～ 536-3207 FUKUSHIMAYA 立川店……………534-1700 相模屋酒店……………536-2476 メンズカット ヤザワ……………536-8738 大型コインランドリー マンマチャオ栄町店
●高松町	ルーデンス食堂 米穀・食料品 横町屋……………522-2609 中華料理店 太幸苑……………527-0906 セイロン風カリヤ シギリア……………507-2418 ふじ整体院……………540-9155 ライブハウス Crazy JAM……………529-9507 立川湯屋敷 梅の湯……………522-3800 ヘアーサロン イトウ……………522-6281 立川伊勢屋 本店……………522-3793 書籍・雑誌 フレンド書房……………527-1555 大野サイクル……………523-2061 立川キリスト教会……………526-6826



真如苑提供番組「常楽我浄」

スカパー！：529ch

スカパー！で放送の常楽我浄はスマートフォンアプリ「ivy」（無料）で視聴できます。

J:COM 多摩：111ch

放送時間については番組表をご確認ください。

www.shinnyo-en.or.jp

街の話題

自衛消防審査会始まります

本年10月11日(木)に開催される事業所の自衛消防審査会。その説明会が立川消防署で開催され、多くの事業所の方が集まりました。人命を守るのに、大事なのは初期消火。ポイントを押さえた初期消火活動を身につけることは、事業所の新人教育に取り入れられています。えくてびあんでは毎年取材を続け全出場隊の記録をとってきましたが、本年は趣向を変えて、ご理解とご協力をいただける隊のみ密着取材。自衛消防審査会に向ける企業努力を広くお伝えし、立川署管内の消防意識をさらに高め安心安全な街づくりに協力してまいります。8月末よりブログで随時更新していきます。ご覧ください。

ポンプ操法審査会★

7月22日(日)、緑町にある多摩広域防災倉庫で立川市消防団ポンプ操法審査会が開催され、砂川地域にある1分団から10分団が日頃の訓練成果を競いました。年明けから立川市内で数件続いた延焼火災でも、立川市消防団の放水活動で被害を最小限にとどめることができたそうです。猛暑の中、訓練に励んで審査会に臨まれたみなさま、本当にお疲れさまでした。順位は優勝が8分団、準優勝は2分団、3位は9分団でした。



曙町祭礼パレード30回

諏訪神社例大祭に併せ行われる曙町祭礼パレードが、今夏30回を迎えます。よいとまつり同様、平成元年から行われてきました。曙町の各町会に加え、手古舞やお囃子、曳き太鼓など18の団体がサンサンロードから北口大通りを勇壮にパレードします。8月25日、26日両日とも、サンサンロードのステージでは賑やかに催しが行われます。30回の節目を皆さん、一緒に楽しみましょう！

東レパンパシチケット中学生にプレゼント★

7月30日(月)、立川市役所 市長室で東レパンパシフィックオープンテニスの予選会チケット贈呈式が行われました。立飛ホールディングスの村山社長から清水市長に手渡されたもので、チケットは1000枚、市内の中学校に配布されるそうです。小町教育長も立ち会われていました。市長、教育長のお話によれば、まず市内中学校のテニス部の部員を中心に500枚、あとは9校の校長先生と相談し生徒数に鑑みて公平に分配されるそうです。テニスだけでなく、大相撲、バスケットボール、ビーチサッカー、フットサルなどなど、世界レベルのプレーを目の前で観ることができる——2020を前に、スポーツ立川のイメージがさらに濃くなってきました。



★印のついている記事は、えくてびあんのブログ

「立川は Ecoutezbien えくてびあん」に詳しく掲載されています。



1階も2階も会場に

ニホンゴ探検2018★

緑町にある国立国語研究所で、7月14日(土)に公開イベントが行われました。夏休みを前にして、自由研究のヒントがあるかも?と猛暑の中、たくさんの親子連れが会場へ。ことばを真ん中に、切り口を変えた企画が盛りだくさん。日本語を改めて知るチャンスになりました。ミニ講義では、コップとカップという言葉を比べることで今まで無意識に使っていた言葉の深さを再発見。田窪所長の日本にある言語についての講義には、子どもたちより大人が聞き入っていました。全国でも立川にしかない研究機関、行かなきゃソンソン。

1日だけのレストラン★

7月29日(日)、今年も無事に「1日だけのレストラン」開催しました。本当に「無事に」と言いたくなるような迷走台風。28日と29日に予定されていたいろんなイベントが中止になる中、開始時間を1時間遅らせての開催でしたが、お客様がオープン前から行列を作る大盛況。ご近所だけでなく遠方からも来られるお客様を見ると、立川の農家の頑張りを感じます。開催者の鈴木農園(西砂町)の野菜を存分に味わえた1日でした。

おじゃましま～す! ——[66]

パン工房 麦

西砂小学校の近く。普通のお宅ですが、よく見ると垣根に看板らしきもの。ここはお店かな?と思いながら扉を開けると、そこはすっかりパン屋さん。10年ほど前から、



ご主人手作りの新窯 道具も手作り

ていただくと、小麦粉のおいしさにぶどうの甘み、胡桃のkokで、後を引いて手が止まらない。さくらの塩漬けが載った漉しあんパン、胡麻がふられた粒あんパン、好みは分かれるところですが、どちらもまた食べたい と思う味。むしろ、あの人に買って帰って食べさせたいと思う味です。なにしろパンがおいしい。それもそのはず、作っている人が楽しんで作っているから。クロワッサンやメロンパンも店頭に並ぶそうですが、ふつうのコッペパンは使い勝手がよくてお得です。地域の方が集まって、ゆっくりおしゃべりしていくお店。立川駅からはちょっと遠いけれど、通いたいパン屋さんです。



講堂でのミニ講義は満席で、椅子が補充されました



表紙の人

岩崎 泉さん(後列中央)、舞さん(同左) 元さん(同右)、絹子さん(前列左)、敏子さん(同右)

岩崎 泉さん。立川商工会議所最高顧問というお立場ですが、とっても気さくなお人柄。立川商工会議所会頭時代にもえくてびあんの表紙を飾っていただきました。その時はおひとりで、今回は三代で。多摩信用金庫にお勤めしている時代に知り合った奥さま、絹子さんは青梅のご出身。おふたりの間にはお子さんが3人、一番上のお子さんで長女の敏子さん、その下には弟さんが2人いまして、いずれも立川の経済界を背負う方々です。テニス焼けが若々しい敏子さん、対照的な色白の舞さんは都区内の企業にお勤めで、元さんは法律を学ぶ大学院生。このおふたりの他に、ドイツでバレリーナとして活躍しているお嬢さん、悠さんがいらっしやいます。例年にない猛暑の中、お祭りが近いこともあって、皆さん浴衣で登場です。泉さんがお召しになっている浴衣は町会の浴衣。なにしろ30回の節目を迎える曙町祭礼パレードの実行委員長ですから! 撮影には伊勢丹立川店呉服売り場と丸屋さんのご協力をいただきました。皆様、ありがとうございます。(撮影場所:伊勢丹立川店)

かたこと

◆梅雨明けと同時に尋常でない暑さに見舞われた日本列島。台風12号が関東直撃かと思いきや徐々に進路を変え、あろうことか7月の豪雨被災地を襲うという事態。被災者の皆さんは心身ともにとても疲れていらっしゃるだろうと思うと心が痛みます◆立川でも台風12号の影響で花火が中止されました。タチヒビーチで予定されていたビーチサッカーのイベントも中止。大雨の後は、また毎日焼けるような暑さです◆農作物への影響も大きく、野菜は高騰。そんな中、鈴木農園の野菜を使った「1日だけのレストラン」は頑張っていました。鈴木農園に限らず、毎週土曜日に高島屋前で開催される「立川マルシェ」も元気です。若い農家さんたちは頑張っています◆その農家さんたちがもうひとつ頑張ってくれているのが、立川市消防団です。主に農家の後継者の方たちで組織されている立川市消防団。最近ではサラリーマンの方も参加されているというのですが、突然の火事に対応し即出動するのですからどんなお仕事であっても大変です◆立川よいと祭りには東京都知事もいらっしやいました。注目の都市 立川はまだまだ大きく変わります。変化を見逃さず、えくてびあんも猛暑に負けず頑張ります!

えくてびあんスタッフ

えくてびあん ⑨

9月号 第36巻 通巻406号

平成30年9月1日発行
発行 有限会社えくてびあん
〒190-0023
東京都立川市柴崎町2-1-10 高島ビル4F
TEL 042-528-0082 FAX 042-528-0065
E-mail message@tamatebakonet.jp
URL http://ecoutez.exblog.jp
URL http://ecoutez.exblog.jp
発行人 黒須 環
企画・写真・編集 えくてびあん編集スタッフ
デザイン 池田隆男 (WATER DESIGN ASSOCIATES)
印刷 三浦印刷株式会社・DECK C.C.

無断転載を禁じます。

Écoutez Bien September 2018 No.406



節目のよいと祭りに大幟

8月4日(土)猛暑の中、第30回立川よいと祭りが開催されました。夕方のセレモニーには小池都知事も参加、いよいよ東京の未来は立川から! という印象が強くなってきました。

節目の本年、特筆すべきことは立川市の指定有形文化財でもある砂川十番組大幟の建立です。支柱(竿)、彫刻飾り、挟み板やかんざし、もちろん大きな幟旗も、すべて170年前に作られた当時のまま完全な形で残っているのに、平成元年第1回立川よいと祭りで建立されたきり、文化財としてしまわれ、人の目に触れることはありませんでした。それをこの時に建立しようと、立川市自治会連合会の萬田会長や豊泉喜一さんが中心となって発願、そこに清水市長、小町教育長、立飛ホールディングスの村山社長などいろいろな方々が協力、めでたく建立され真夏の空に高くはためきました。

大幟が立った場所は、7月の初めまでヤギがいた場所。未来の立川を先導する土地に歴史の重みが重なって、記念すべき第30回立川よいと祭りは、とてもおめでたい1日となりました。

(詳細はえくてびあんのブログにあります)



かつて十番組の畑に
立てられていた大幟

8月4日「御祭禮」の大幟と関係者のみなさん
(左端が萬田和正さん、その右隣りに豊泉喜一さん、後方真ん中が村山正道社長)